

## 沼田町校務 DX 計画 (公立学校情報機器整備事業)

### 1. 1人1台端末（指導者用）の整備

校務用 PC 端末を教員 1 人 1 台整備済みであり、1 人 1 台端末（指導者用）の整備を完了している。令和 7 年度には、今後の GIGA スクールで推奨されるゼロトラスト環境の構築に備え、必要なスペックを保有する端末への更新を行う。

### 2. ネットワークの改善

現在、町内の小中学校において、普通教室、特別教室、体育館でインターネットの接続が可能である。令和 6 年度には、電波が比較的弱い箇所にアクセスポイントを新設および一部更新を行い、校内全域の通信の安定性を向上させた。

また、文部科学省が示す学校規模ごとの 1 校あたりの帯域の目安（当面の推奨帯域）の値を参考に、令和 6 年度に調査を実施したが、基準となる通信速度を満たしていなかった。今後、より高い通信速度を持つ回線プランへの契約変更によって、必要とされる通信速度の改善を目指す。

### 3. 校務のデジタル化

メール等の使用を基本としており、FAX でのやり取りは現在ほぼ行われていない（町内的には FAX を使用している事業所もあり、受信には用いている）。押印についても省略可能としている書類が多く、完全廃止とはしていないが、日常的には大幅に使用機会を削減している。

現在、学校現場ではロイロノートを導入しており、授業での課題の配信・回収や、職員会議時の時間短縮およびペーパーレス化に非常に貢献している。校務支援システムも導入し活用しているところであるが、現在のセキュリティポリシー下のネットワーク構成上、不便なことも多く、将来的にクラウドサービスの活用を検討する。

### 4. 1人1台端末の活用と個別最適・協働的な学びの充実

上記のロイロノートを活用し、授業中の児童生徒・教師双方の円滑な意見交換による協同的な学びを行っている。また、AI ドリルを導入しており、児童生徒の進捗や習得状況に合わせた学習の提案を可能としている。

授業改善の中で、教員自ら率先して ICT の活用を模索・実践しているところであるが、教員間の得意・不得意が使用率に影響している側面があるため、機器の使用研修や効果の検証を適宜行いつつ、よりよい学びに繋がるよう努める。

## 5. 学びの保障

不登校児童生徒については、学校と家庭をオンラインで繋ぎ、授業の様子を配信するなど、ICTを活用した学びの保障を実施している。令和7年度からは、不登校児童生徒を対象に（かつ希望者に対し）、民営塾の学習プログラムの提供を行うことで、より広範な事情に対応した支援体制を整備していく。

また、外国人児童生徒や障害のある児童生徒等、特別な支援を要する児童生徒については、当該児童生徒の実態に応じて端末を活用した支援を実施する体制を整備することとし、現場で必要とするアプリケーション等について柔軟な導入を検討する。